

税務課からのお知らせ

給与所得に係る個人住民税の特別徴収を平成26年度から一斉実施します

秋田県と県内市町村は、給与所得に係る個人住民税（市町村民税・県民税）の特別徴収を平成26年度から一斉に実施します。

特別徴収とは

事業主（給与支払者）が、毎月給与を支払う際、所得税の源泉徴収と同じように、町県民税を従業員（納税義務者）の給与から差し引いて、町に納入していただく制度です。

税額の計算は給与支払報告書などに基づき町が行い、従業員ごとの町県民税額を町から事業主へあらかじめ通知します。

特別徴収の対象者

地方税法により、従業員※が前年中に給与の支払いを受け、かつ、4月1日に給与の支払いを受けている場合は、特別徴収の対象になります。

※従業員には、パート、アルバイト、役員などを含みます。

特別徴収のメリット

- ・納期が12回になるため、納付書などで納付する普通徴収の年4回に比べて、1回当たりの納税額の負担が軽くなります。
- ・金融機関などに出向いて納税する手間が省け、納め忘れがなくなります。

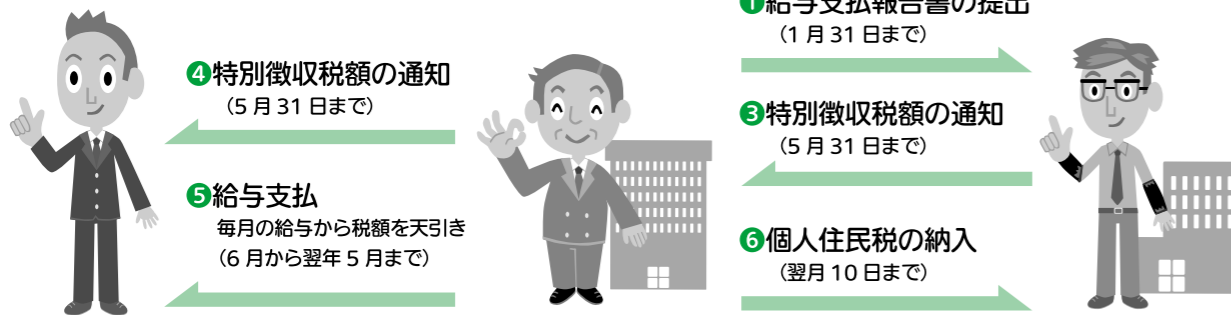
特別徴収による納税のながれ

給与所得者
(従業員)

給与支払者
(事業主)

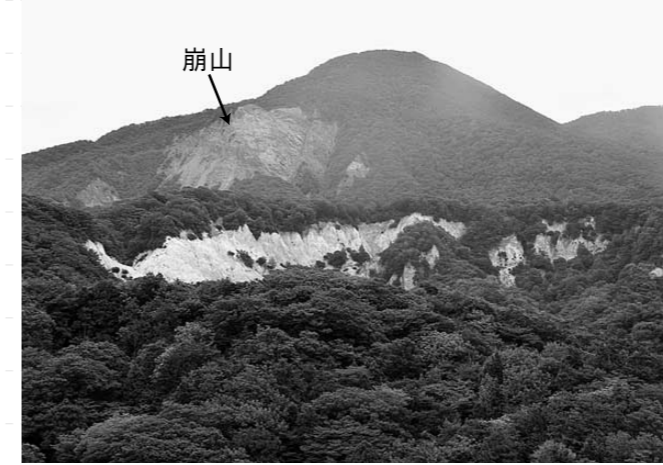
市町村

②税額の計算



毎年5月に給与支払者（事業主）あてに、「特別徴収税額決定通知書」をお送りしますので、毎月の給与からその税額を徴収していただき、給料日の翌月の10日までに各給与所得者（従業員）の住所地の市町村に納入していただきます。

■問合せ先 八峰町税務課 ☎76-4604



北西から見た十二湖崩れ



十二湖の日本キャニオン

地震がつくった十二湖の自然

江戸時代のことです。現在の深浦から能代にかけての地域を、大きな直下型地震がおそい、数十人の死者が出ました。能代ではほとんどすべての家が倒れたり火事で焼けましたし、八森では、150〜160軒程の家のうち壊れなかったのは5〜6軒だったそうです。これが、1704年（宝永元年）5月27日におこった岩館地震（マグニチュード7前後）です。ご心配の方があるかもしれませんので念のためご説明しますが、もし同じ地震が起こっても、八峰町ではこれほどの被害はないでしょう。最近の家屋は江戸時代のものより丈夫ですし、八峰町は地盤が良いからです。

その地震の時、今の十二湖の所で大きな地すべりが起こりました。地震でユサユサゆすられているうちに、山がドツとすべるように崩れ落ちてしまったのです。十二湖の奥にある「崩山」がそのあとで、崩れた地形全体を十二湖崩れといいます。では、崩れた土砂はどこにいったのでしょうか？

今、十二湖に行くと青池などたくさんの美しい池を見ることが出来ます。実は、そのあたりはすべて地すべりの土砂で埋めつくされた場所なのです。青池から日本キャニオンのあたりまで、東西2キロメートル、南北2・5キロメートルの広い範囲に、厚さ数十メートルもの土砂がたまっていきます。これが全部地すべりによるものなのです。その量は1・1億立方メートル、ざっと東京ドーム100杯分程の巨大な量です。

青池、鶏頭場ノ池、王池東池、王池西池、大池など十二湖を作る湖はすべてこの土砂の上にあります。地すべりによってすべりおちてきた土砂は上がデコボコです。しかも、地すべり地には水がたつぷりあります（だからすべりやすいのですが）ので、デコボコの地形の低めの所に池ができたというわけです。もちろんこの地すべりは、当時このあたりにすんでいた人に大きな影響を与え、10名の人々が行方不明になったことが古文書からわかっています。

地すべりの土砂の海側のはしは、日本キャニオンです。日本キャニオンは高さ150メートル（これは30数階のビルディングと同じ高さです）。地すべりの土砂は、もともと白くてやわらかい「軽石」や「火山灰」でできています（ホームセンターで売っている鹿沼土と似ています）。たいへんもろい地層ですので、何かとくずれることが多いので、植物のまったく生えない白い崖ができあがったというわけです。

地すべりという「災害」など悪いことしか思い出さないかもしれませんが、でも、十二湖では、地すべりによって美しい風景ができあがっているのです。地震は必ずしも人間にとって悪いことばかりではありません。良いこともあるのです。

秋田大学教育文化学部教授 林 信太郎

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒018-2612 秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427